

小池一子

KOIKE Kazuko

クリエイティブ・ディレクター

早稲田大学文学部卒業。武蔵野美術大学名誉教授。「無印良品」の創業以来、アドバイザーボードを務める。1983年～2000年、「佐賀町エキジビット・スペース」を創設・主宰し、多くの現代美術家を国内外で紹介。近著に『美術／中間子 小池一子の現場』（2020、平凡社）など。訳書『アイリーン・グレイー建築家・デザイナー』（2017、みすず書房）ほか。2022年1月には、「オルタナティブ！ 小池一子展 アートとデザインのやわらかな運動」（アーツ千代田3331）を開催した。2022年、第14回伊丹十三賞受賞。



Photo by Taishi Hirokawa

巖谷國士

IWAYA Kunio

「マン・レイと女性たち」展監修者／仏文学者／美術批評家／明治学院大学名誉教授

1943年生まれ。東京大学文学部フランス文学科卒・同大学院修了。学生時代に瀧口修造や澁澤龍彦と出会い、シュルレアリスムの研究と実践をつづける。文学・美術・映画などの批評のほか、紀行、写真個展、展覧会監修などで幅広く活動。主著に『シュルレアリスムとは何か』『森と芸術』『旅と芸術』『澁澤龍彦論コレクション』全5巻のほか、アンドレ・ブルトン『シュルレアリスム宣言・溶ける魚』『ナジャ』など、多くの訳書でも知られる。本展の監修者として図録を兼ねた著書『マン・レイと女性たち』（平凡社）を執筆した。



青柳いづみこ

AOYAGI Izumiko

ピアニスト・文筆家／大阪音楽大学名誉教授

1950年生まれ。フランス国立マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。1989年、論文『ドビュッシーと世紀末の美学』で学術博士号。フランス近代音楽の演奏活動のほか、著作多数。1990年、文化庁芸術祭受賞。『翼のはえた指』で吉田秀和賞（1999年）、『青柳瑞穂の生涯』で日本エッセイストクラブ賞（2001）、『六本指のゴルトベルグ』で講談社エッセイ賞受賞（2009年）。CDと著作同時刊行の『水の音楽～オンディーヌとメザリンド～』（2001）ほか。2022年9月にはHAKUJU HALLで公演。



県立社会教育施設公開講座

マン・レイとその時代

毎年ひとつのテーマをたて、関連する講師をお招きする全5回の講演会です。

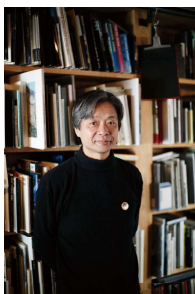
今年度は葉山館で開催する「マン・レイと女性たち」展にあわせ、彼がパリで活躍した1920～30年代に開花した文化思潮を、写真や文学、服飾、音楽など様々な視点から紹介。同展監修者をはじめ各ジャンルの専門家をお招きします。*申込方法と詳細は裏面へ

飯沢耕太郎

IIZAWA Kotaro

写真評論家

1954年生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。1980年代に出版した『「芸術写真」とその時代』、『写真に帰れ 光画の時代』、『都市の視線 日本の写真1920～30年代』は日本の20世紀前半の写真研究書として高く評価された。季刊写真誌「déjà-vu」編集長（1990-95）を務める。『写真美術館へようこそ』でサントリー学芸賞を受賞（1996年）。ほかに『写真的思考』（2009）、『深読み！日本写真の超名作100』（2012）などの著書がある。2016年から写真集食堂「めぐたま」の運営に携わる。



光田由里

MITSUDA Yuri

美術評論家／多摩美術大学教授・アートアーカイヴセンター所長

京都大学文学部卒業後、美術館学芸員として勤務し、2021年より現職。20世紀美術・写真史。著書に『高松次郎 言葉ともの』（2011）、『写真、芸術との界面に』（日本写真協会学芸賞、2007）、共著に『For A New World To Come Experiments in Japanese Art and Photography, 1968-1979』（2016）、『美術の日本近現代史一制度 言説 造型』（2014）など。展覧会に「安井仲治一写真のすべて」（2005、倫雅賞）、「ハイレッド・センター直接行動の軌跡」（2014、美術館連絡協議会奨励賞）ほか。2021年度より多摩美術大学アートアーカイヴセンターの運営に携わる。



マン・レイと女性たち

Man Ray and the Women

2022.10.22-2023.1.22

会場：神奈川県立近代美術館 葉山

神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1

開催時間：9:30-17:00（入館は16:30まで）

休館日：月曜日（1月9日をのぞく）、
12月29日-1月3日

観覧料：一般1,200円、20歳未満・学生1,050円、
65歳以上600円、高校生100円

主催：神奈川県立近代美術館

監修：巖谷國士、マリオン・メイエ（20世紀美術研究、国際マン・レイ協会会長）

企画協力：アートプランニング レイ

国際マン・レイ協会

後援：在日フランス大使館

アンスティチュ・フランセ日本

協力：日本航空

かながわ
教育月間

The Museum of
Modern Art,
Kanagawa &
Hayama
神奈川県立近代美術館

2022年度県立社会教育施設公開講座 「マン・レイとその時代」

- 第1回 11/5(土) 小池一子 「モード、デザイン、時代の風」
第2回 11/26(土) 巖谷國士 「マン・レイと女性たち」
第3回 12/10(土) 青柳いづみこ 「サティの眼から見たマン・レイ」
第4回 12/17(土) 飯沢耕太郎 「マン・レイと日本の前衛写真」
第5回 12/25(日) 光田由里 「マン・レイとデュシャンの回転扉—あるいは写真とオブジェ」

場所： 逗子文化プラザ市民交流センター 会議室2～4
神奈川県逗子市逗子4丁目2-11
京急「逗子・葉山」駅(旧・新逗子駅)より徒歩2分、
JR「逗子」駅より徒歩5分

*場所が美術館と異なります。*駐車場はありません。

時間： 12:40-14:40 (開場 12:20)

定員： 各回 60名

*申し込み先着順、定員に達し次第切

受講料： 各回 1,000円

*任意の回数で申込が可能です。

*受講料は受講日ごとに、会場受付にて現金でお支払いください。

*全5回のうち、4回以上受講した方には修了証を差し上げます。

主催： 神奈川県立近代美術館

共催： 逗子市教育委員会



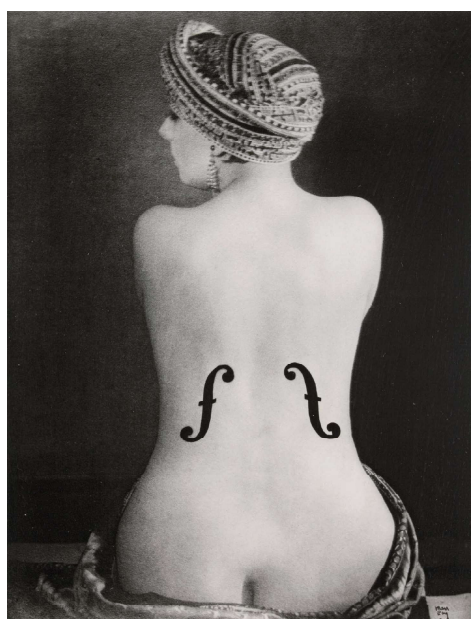
2022年10月4日(火)10:00より申込受付開始

① 美術館 ウェブサイト <http://www.moma.pref.kanagawa.jp> 「イベント」メニューから申込フォーム

② 電話 0467-22-5000 (鎌倉別館代表)

* ご来場の際してのお願いと最新情報は、美術館ウェブサイトか電話でご確認ください。

* 講演会当日は、マスクの着用と事前の検温にご協力をお願いします。



マン・レイと女性たち Man Ray and the Women 2022.10.22-2023.1.22

20世紀を代表する芸術家マン・レイ(1890-1976)。絵画やオブジェ、映画などジャンルを超えて活躍した彼は、とりわけ写真という新しいメディアの可能性を追求しました。レイヨグラフィやソラリゼーションによる実験的な表現を生み出す一方で、自らが参加したダダやシュルレアリスム運動の記録、ポートレート、ファッション写真なども手がけました。彼がカメラに収めた「女性たち」に光を当て、240点余の作品からその軌跡を追う本展では、併せて日本におけるマン・レイの受容についても特集します。

同時開催：コレクション展 内藤 礼

すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022

マン・レイ 《アングルのヴァイオリン》1924年 個人蔵
Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris©MAN RAY 2015 TRUST /
ADAGP, Paris & JASPAR Tokyo, 2021 G2698